

— 自然と共に生きるまち —



森林と河川に恵まれ、自然が生活の一部

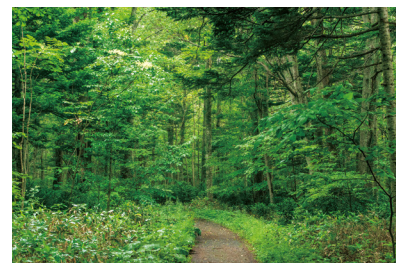
野幌丘陵とその周辺の低地に位置する江別市。野幌丘陵には野幌森林公園をはじめとする、開拓以前の名残をとどめる豊かな自然が広がります。

野幌森林公園は、大都市に隣接した平地林として世界的に貴重な森林。2053haにもおよぶ園内には5カ所から入ることのできる遊歩道があり、緑の季節にはさまざまな花や野鳥

の観察のほか、森林浴、冬には歩くスキーなど、年間を通して多くの人々に利用されています。

丘陵を取り囲むように広がる低地には、石狩川を筆頭に大小42の河川が流れています。その周囲には田畑や防風林が広がり、江別市の原風景を今に伝えています。

石狩川の流域に当たる北部は緑が多く、石狩川と篠津川との合流地点にあるしのつ河畔林は、北海道の環境緑地保護地区に指定されている野鳥や小動物の宝庫です。



自然林と、針葉樹などを植栽した人工林からなる野幌森林公園。自然林には太さが1mを超える大木も多く、開拓以前の自然の様子を知ることができます。



写真の泉の沼公園のように、自然の地形を生かした公園や緑地が市内に点在しています。



市民の声

江別に帰ってきて自然を見るとホッとします



伊藤 孝太さん
沙喜子さん
玄くん



横浜市から江別市に移住してきた伊藤孝太さん、沙喜子さん、玄くんのご家族。スポーツ用品輸入代理店に勤務する孝太さんにとって、江別の自然は魅力的に映ったようです。

「豊かな自然のなかで子育てをしたくて、結婚を機に横浜から地元の江別へ移住しました。移住前と同じく、横浜が本社のスポーツ用品輸入代理店で、今はフルリモートで働いています。道外、海外への出張も多い仕事ですが、江別に帰って森や雪を見るとホッとします。スキーをする人間から見ると、江別って最高の環境なんです。」



クロスカントリーなら近隣の野幌森林公園へ、グレレンデなら岩見沢市や長沼町へ車で約30分。以前は3〜4時間かけて東京近郊のスキー場に通っていたので、夢のようです。

高校時代まで、江別は何もないのが当たり前だと思っていた。でも、都会や海外での仕事、多くの出会いを経験して、何もないというのは当たり前じゃないと気付いたんです。治安が良く、みんなの顔がわかるまちな規模。これって、幸せなことなんだと。一度離れたことで、改めて江別の良さがわかった気がします」

野幌森林公園の動植物

野幌森林公園では、四季折々の動植物を観察することができ、多くの市民が散策に訪れます。エゾフクロウやクマゲラなどの野鳥や、「昭和の森のカツラ」などの巨樹・巨木も見ることができます。



野幌森林公園大沢口にある自然ふれあい交流館では、森林公園に生息する動植物の紹介や園内の散策路図、最新情報がわかる伝言板や自然情報誌などが常設されています。



ミズバショウ



オオバナノエンレイソウ



シマエナガ



エゾリス



オオタチツボスミレ



フクジュソウ



キビタキ



キタキツネ